

# 応用生物科学部の新たな挑戦

応用生物科学部 学部長 福井 博一



各務同窓会員の皆様のご支援のおかげをもちまして、岐阜大学応用生物科学部の教育研究が益々発展いたしておりますこと、深く感謝申し上げます。

岐阜大学応用生物科学部は、岐阜高等農林学校が1923年（大正12年）に設立され93年をむかえます。この間には岐阜農林専門学校、岐阜大学農学部、応用生物科学部と大きな変遷を伴いまいりましたが、「一貫して設立当初の教育理念「凛乎真摯」、「自化自育」を掲げて、地域に根ざした教育研究に取り組んできました。そして、法人化後の第3期（13年目）中期目標・計画をむかえて、新たな挑戦に取り組もうとしております。

来年4月からは大学院応用生物科学研究科（修士課程）が工学研究科（修士課程）と共に再編して自然科学技術研究科となります。この新研究科では、特に生命科学分野において応用生命科学分野が工学研究科の生命工学分野と一体となり、社会からの要請の高い生命科学、食品科学に対する教育体制の充実を図ります。

生命科学分野の研究は日進月歩の発展を遂げ、従来の研究領域を大きく拓



張していることから、岐阜大学の特色を活かした「次世代生命科学研究拠点生命の鎖統合研究センター」を10月に設立しました。本研究センターは学部の特長研究の一つである糖鎖化学研究拠点として2009年に設置されたCeMS（京都大学物質・細胞統合システム拠点）岐阜大学サテライトが中心となり、生命科学、獣医学、医学、薬学分野を統合し、世界トップレベルの研究を推進することを目的として設置されました。本学部からは石田秀治教授が初代センター長として就任すると共に、3研究領域のうち安藤弘宗准教授と高島康弘准教授が領域長を務め、計12名の教員が兼任教員として中心的な役割を果たすこととなっております。

一方、食品生命科学分野においては、平成30年度に岐阜県食品科学研究所（仮称）が応用生物科学部の東側に隣接して建設されることが決まりました。本研究所は、現在の岐阜県産業技術センター食品部が改組されて岐阜大学キャンパス内に移転するものです。これを機に7月には岐阜県酒造組合連合会と連携協定が締結され、さらには岐阜県と9件の食品

科学共同研究が始まっています。

獣医学分野においても新たな挑戦が始まっています。岐阜県中央家畜保健衛生所の柳戸農場の南側敷地への移転工事が本格稼働し、平成29年4月には開所式を迎えることとなりました。地方自治体の施設が国立大学キャンパス内に移転するのは全国でも初めての事例で、これを機に産業動物獣医学教育の充実を図ると共に、3階に設置される学部附属家畜衛生地域連携教育研究センター（GPHU）が中心となって、岐阜県の畜産業界の発展に貢献できるものと期待されています。

1990年（平成2年）に設置され、26年の歴史を持つ連合獣医学研究科が平成30年度をもって終了することとなり、新たに鳥取大学との共同獣医学研究科（博士課程）設置に向けた協議が始まりました。鳥取大学とは学部教育において共同獣医学科が平成25年4月に発足し、現在1〜4年生が在学しています。共同獣医学科の完成年度（6年生修了年度）の平成30年度には、学部教育と大学院教育が一体となった体制で臨むことが可能となり、将来の共同獣医学部設立に向けた一歩を踏み出すことができるものと期待をしています。

近年の大きな社会問題ともなっている鳥獣害の対策に対して全国を牽引する役割を果たしている野生動物管理学研究センターでは、岐阜県からの寄附研究部門（鳥獣対策研究部門）を継続発展するべく様々なシンポジウムやセミナーを開催し、高い評価を受けています。特に岐阜県は広大な面積を中山間地域が占めており、中山間農業振興の観点から、野生動物の被害対策を図ると共に、それらとの共存についての活動を進めています。

岐阜大学は第3期中期目標・計画の策定にあたり「地域活性化の中核拠点」と位置づけています。これを受けて生産環境科学課程では、岐阜県揖斐川町との連携協定の基で、東海農政局からの支援を受けて小津地区を拠点とした活性化方策に取り組み始めました。白山神社のサカキプロジェクト、ワサビプロジェクト、伝統野菜の発掘プロジェクトなど課程の特色を活かしたユニークなプロジェクトに加えて、地域振興教育実践の場として学生が現地に赴いて活動を始めています。同様に、美濃加茂農場が主体となって飛騨牛後継者育成事業に参画し、地域の畜産業振興に貢献するべく準備を始めました。

このように、応用生物科学部は岐阜大学の中で最も活性の高い学部との評価を受け、資質の高い受験生の受入と入学後の適切な教育の基で、地域に根ざした高度専門職業人教育を進めております。

各務同窓会の皆様におかれましては、大学法人化後の第3期中期目標・計画の初年度にあたって新たな挑戦に挑んでいる応用生物科学部への支援を是非ともお願いいたしたく思います。

最後になりましたが、同窓会各位のご健勝をお祈りいたしております。

# 「自化自育」の扁額

学部長 福井 博一

本学の教育モットー

の一つである「自化自育」(絶えざる自己研鑽によって、自らを高めるよう努力すること)は、1924年12月に岐阜高等農林学校第2代校長草場栄喜氏が教育方針としたものです。岐阜大学農学部六十年史によれば、八雲礫山氏の書が学生控室に掲げてありましたが、第2次世界大戦時に「凜平真摯」の扁額と共に行方知れずとなっていました。「凜平真摯」は、その後第3・5代農学部長高橋梯蔵氏の書による扁額があるものの、「自化自育」の書は長く不在でした。



法人化に伴う応用生物科学部改組12年(大学法人第2期中期計画終了)を機に第20代農学部長中村征夫氏にお願いして、「自化自育」の書を揮毫いただきました。扁額は卒業生祝賀会会場となる一〇二講義室の正面に掲げ、一〇一講義室の「凜平真摯」の扁額と共に、学生・卒業生の心の礎となることを願っています。



# 2016年ご挨拶

各務同窓会会長 水野 隼人(74)



各務同窓会の皆様には、お元気でご活躍のことと拝察いたします。

今年、私たち各務同窓会にとって特筆すべきことがありました。

一つは、農学部100周年(2023年)にむけて同窓会と学部がともに連携し100周年記念事業会が設置されました。(事務局長 平工孝義 A大25卒)二つには、岐阜大学6つの同窓会が連携し連合会として大学とともに共通の取り組みをする。三つにはその一環として、創立以来初めて同窓会連合会として大学と協同して表彰制度を設け、各務同窓会推薦の杉山幹夫氏(岐阜放送会長、M1卒)が受賞されました。私たちにとつても一つ身近になってきました。

その一方全国の支部の状況はこの間ご報告しているとおり、高齢化と新規加入者の減少で苦勞されています。でも工夫し努力されている支部もたくさんあるとおもいます。

岐阜支部では、趣味の会(同好会)をつくり、また地元の強みをいかし(場)を有効に生かす努力をされています。そのために加入のおすすすめを支部OBに送ることをされています。

今回提起させていただいた100周年事業はまさに、支部の活力を作ることにあります。

とにありますが、そこで皆様にお願ひですが、全国60あるあなたの支部の状況・あなたの支部が努力していること。そして課題。

をお寄せいただきたく思います。

100周年は私たちにとつて区切りの年であると同時に支部の強化にありませう。

そして、新しい魅力と愛着を共に作り上げることにあります。

# 幹事長からのご挨拶

幹事長 柳井 徳磨

同窓生の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、私、各務同窓会幹事長を拝命して、早いもので二年目の任期が終わりにかかつております。おかげさまで、各務同窓会と学部を取り巻く状況、さらに今後同窓会が進むべき道が少しずつ分かってまいりましたが、未だ多くの課題が残されております。

私が、岐阜大学農学部にて平成2年に奉職して以来、二十数年が経過しましたが、自分の守るべき専門研究と教育にのみ目が行き、自分の立ち位置で



中興大学にて卒業生の徳芳老師と。

ある岐阜大学応用生物科学部(農学部)がどのような歴史、さらに先人の思いで創立されたかにつき、配慮を払う余裕がなかったように思います。今回、各務同窓会の幹事、さらに幹事長を拝命するに至り、本学部の前身、岐阜高等農林学校の成り立ち、さらに同窓会および各務同窓会との絆につき思いを馳せる立場に置かれたのは僥倖であつたとつくづく、思います。農学部発祥の地、各務の野(各務市中央公園)にも何度か足を運ぶ機会を得て、彼の地で農学部時代の残された立派な植栽や古木、さらに九二八ガーデン跡(1928年9月28日秩父宮成婚記念、凜真寮跡地(現各務原西高)、瑞天寮跡などを巡ることで、設立に関わつた多くの方の想いや心意気などを感ずることができました。また、各支部の総会に参列させていただく機会もあり、各地の同窓生の岐阜大学および

岐阜の地への篤い想いを直に感じることができました。昨年度は、台湾の台中市にある中興大学を訪問した折、旧い卒業生の徳芳老師(家畜畜産修士49年3月修了)にお会いして、とても歓迎していただいたことなど忘れたい思い出です。今後は、国内だけでなく海外の多くの同窓生と連帯を育む必要を切に感じております。

また、応用生物科学部と幾代もの卒業生との絆を確かめ、強力なものにする機会として、平成35年(2023年)に予定される百周年記念事業は、ある意味、天恵といふべき貴重な機会と思われまふ。是非、このチャンスを生かし、岐阜大応用生物科学部がさらなる飛翔を遂げられることを切に願っているの頃です。そのためにも、同窓生のお力が不可欠です。今後とも、変わらぬご支援のほど、宜しくお願ひ致します。

# 農学部・応用生物科学部 創立百周年記念事業会のスタート

各務同窓会幹事長 柳井 徳磨

平成27年6月6日の代表委員会で水野各務同窓会会長から、平成35年(2023年)には岐阜大学農学部の前身である岐阜高等農林学校が正12年(1923)に設立されて、百周年を迎えるので、その準備をスタートさせる旨、ご提案があり、全会一致で承認されました。

その趣意としては、「岐阜大学農学部・応用生物科学部創立百周年の記念事

業に向けて、H27年度から、同窓会と学部が一つとなつて連携し、来る百周年記念事業に取り組み、同窓の絆を深め、大学の発展に寄与したいと考え



各務同窓会100周年記念事業会設立総会

各務同窓会報

代表者委員会での承認をもとに、百周年を目指した各支部の結束を強めるために、水野会長の指示で、身近な岐阜大学の周辺から、百周年事業に向けた準備会をスタートさせることになりました。

百周年記念事業の準備会として、平成27年9月12日に岐阜大学応用生物科学部において、水野会長、福井学部長を中心に岐阜県内の同窓を中心として、森脇岐阜大学長、鈴木副学長、福士副学長のご列席のもと、今後の準備のための事業の趣意および事業規約などの原案につき話し合い、次年度の代表委員会に提案する骨子を組み立てました。

百周年事業の案については、複数回の役員会や幹事会で審議を重ねた後、平成28年度6月4日の各務同窓会代表委員会にて提案され、正式に承認されました。ここに岐阜大学農学部・応用生物科学部創立百周年記念事業会がスタート致しました。事業会の代表は学部長、事務局長は平工孝義各務同窓会副会長が就任され、広く、学内外の方々と連携して取り組みます。来る2023年の創立百周年を、学部にとっても、岐阜大学にとっても実りあるものにするのが、岐阜大学同窓に大きな誇りをもたらずと信じております。皆様のご理解とご支援を切にお願い申し上げます。



平成二十八年度 各務同窓会代表委員会のご報告



表記の代表委員会が、平成27年6月4日の午前11時半より、岐阜大学応用生物科学部101講義室で行われました。水野隼人会長の挨拶に始まり、来賓の紹介、柳井幹事長の挨拶に引き続き、熊崎議長、司会進行で平成27年度事業・決算報告および会計報告、平成28年度事業計画(案)と100周年記念事業(案)、平成28年度予算案、平成28年度岐阜大学各務同窓会役員(案)の4件の議案を討議いたしました。途中、会計報告で若干の不手際がありました。そのほかとして特筆すべきことは、本年度、各務同窓会相談役の杉山幹夫さんが岐阜大学同窓会連合会表彰者に推薦されたことを受けまして、杉山から挨拶を頂きました。その中では、戦後の岐阜高等農林から岐阜大学農学部への移



管に伴う名古屋大学との統合のお話や、近隣の高専との野球のリーグ戦などのお話をして頂き、とても興味深く拝聴することができました。今回の表彰を祝して委員会からは花束を贈呈し、水野同窓会長からも記念品が贈呈されました。代表委員会に続き、交流会と創立93周年祝賀会を開催いたしました。全国の代表委員の方から持参して頂いた地酒を飲みながら、かつての各務原校舎跡地の現状のスライドでの紹介、各委員からの挨拶を交えながら、楽しく交流することができました。遠路出席して頂いた委員の

平成28・29年度岐阜大学各務同窓会役員

Table with 3 columns: Position (名誉会長, 会長, 副会長, 相談役), Name, and Affiliation (e.g., C大15, F大25).

平成28年度幹事長・幹事及び監事

Table with 3 columns: Position (幹事長, 幹事, 監事), Name, and Affiliation (e.g., 共同獣医学科, 生産環境科学課程).

支部総会開催状況

Table with 3 columns: Branch Name (e.g., 愛知県各務会), Date (e.g., 27.05.23), and Attendees (e.g., 清水 英良).

皆様には、お礼を申し上げます。なお、同窓会事務局へご質問・連絡等がありましたら058-29313411(16時以降は留守番電話になります)・Email: ob-ans@gifu-u.ac.jpまで宜しくお願いします。



各務同窓会報

平成27年度各務同窓会決算報告

自平成27年4月1日 至平成28年3月31日

1. 一般会計 2. 基本金特別会計 3. 資産現在高 4. 資産保管状況

1. 一般会計

(1) 歳入の部

(単位：円、小文字は内訳)

Table with 4 columns: 勘定項目, 今年度予算, 決算額, 比較増△減額. Rows include 1. 会費 (入会金, 年会費), 2. 利子, 3. 雑収入, 4. 基本金特別会計より繰り入れ, 当期歳入合計(A), 前年度繰越収支差額, 歳入合計(B).

(2) 歳出の部

Table with 4 columns: 勘定項目, 今年度予算, 決算額, 比較増△減額. Rows include 1. 事務費 (消耗品費, 人件費, 通信費, 旅費, 終身会費返金, 雑費), 2. 会議費 (代表委員会費, 代表委員会旅費, 役員会費), 3. 事業費 (会報等印刷費, 会報郵送費, 会報発送雑費, ホームページ管理費, 同窓会長賞費), 4. 名簿関係費 (発送費), 5. 慶弔費, 6. 支部総会派遣費, 7. 卒業・修了祝賀会賛助費, 8. 予備費, 当期歳出合計(C), 当期収支差額(A)-(C), 次期繰越収支差額(B)-(C).

2. 基本金特別会計

(1) 歳入の部

(単位：円、小文字は内訳)

Table with 4 columns: 勘定項目, 今年度予算, 決算額, 比較増△減額. Rows include 1. 終身会費 (新入生分, 卒業生分), 2. 雑収入, 3. 利子, 当期歳入合計(A), 前年度繰越収支差額, 歳入合計(B).

(2) 歳出の部

Table with 4 columns: 勘定項目, 今年度予算, 決算額, 比較増△減額. Rows include 1. 一般会計への繰入, 2. 振込料, 当期歳出合計(C), 当期収支差額(A)-(C), 次期繰越収支差額(B)-(C).

3. 資産現在高

(単位：円)

Table with 3 columns: 項目, 年度始現在高, 現在高. Rows include 1. 一般会計, 2. 基本金特別会計, 合計.

4. 資産保管状況

(単位：円)

Table with 3 columns: 項目, 一般会計, 基本金会計. Rows include 1. 現金, 2. 普通預金 (大垣共立銀行, 十六銀行, 三井住友信託銀行, 三菱UFJ信託銀行, 郵便局, みずほ銀行), 3. 定期定期貯金 (大垣共立銀行, 十六銀行, 三井住友信託銀行, 三菱UFJ信託銀行), 4. 振替貯金, 合計, 総計.

平成28年度各務同窓会予算

収支予算書 (平成28年4月1日～平成29年3月31日まで)

1. 一般会計

(1) 歳入の部

(単位：円、小文字は内訳)

Table with 4 columns: 勘定項目, 予算額, 前年度予算額, 差異. Rows include 1. 会費 (入会金, 年会費), 2. 利子, 3. 雑収入, 4. 基本金特別会計より繰り入れ, 当期歳入合計(A), 前年度繰越収支差額, 歳入合計(B).

(2) 歳出の部

Table with 4 columns: 勘定項目, 予算額, 前年度予算額, 差異. Rows include 1. 事務費 (消耗品費, 人件費, 通信費, 旅費, 終身会費返金, 雑費), 2. 会議費 (代表委員会費, 代表委員会旅費, 役員会費), 3. 事業費 (会報等印刷費, 会報郵送費, 会報発送雑費, ホームページ管理費, 同窓会長賞費), 4. 名簿関係費 (発送費), 5. 慶弔費, 6. 支部総会派遣費, 7. 卒業・修了祝賀会賛助費, 8. 予備費, 当期歳出合計(C), 当期収支差額(A)-(C), 次期繰越収支差額(B)-(C).

2. 基本金特別会計

(1) 歳入の部

(単位：円、小文字は内訳)

Table with 4 columns: 勘定項目, 予算額, 前年度予算額, 差異. Rows include 1. 終身会費 (新入生分, 卒業生分), 2. 雑収入, 3. 利子, 当期歳入合計(A), 前年度繰越収支差額, 歳入合計(B).

(2) 歳出の部

Table with 4 columns: 勘定項目, 予算額, 前年度予算額, 差異. Rows include 1. 一般会計への繰入, 2. 100周年記念事業会事業費として貸し出し, 3. 振込料, 当期歳出合計(C), 当期収支差額(A)-(C), 次期繰越収支差額(B)-(C).

# 学園だより

## 課程等の近況

### ◆応用生命科学課程

同窓生の皆様には、益々ご健勝にてお過ごしのこととお慶び申し上げます。平成28年度課程長として、分子生命科学コース長の岩橋均教授、食品生命科学コース長の西津貴久教授のご協力を頂きながら、本課程の発展に尽力したいと思います。皆様のご指導を宜しくお願い申し上げます。

当課程は、本年3月に学部卒業生81名を送り出し、そのうち37名が大学院修士課程に進学しました。修士課程修了者は46名で、そのうち3名が岐阜大学連合農学研究科博士課程に進学しました。この4月には、本課程に87名の新入生及び6名の3年次編入学生を迎え入れました。大学院修士課程には平成27年度秋季入学生6名を加えて48名が入学しています。

教員の動向としましては、本年3月1日に、本学部の卒業生である稲垣瑞穂助教が食品素材科学分野に着任されました。また矢部富雄准教授が3月1日付

で教授に昇任されました。鈴木文昭教授は、本年度から理事(国際・広報担当)に専念されることになり、課程を離れて大学運営の要として活躍されています。光永 徹教授は本年度より副学部長(企画・評価担当)として学部の運営に尽力されています。また、山内 亮教授が平成29年3月でご定年を迎えられます。学生として直接ご指導を頂いた者として寂しい限りです。最終講義等への多数の方のご出席をお願い申し上げます。

学生の表彰につきましては、平成27年度卒業・修了時に浅野早知さん(学長表彰)、岡田健司くん(学部長表彰)、宮城一真くん(同窓会長表彰)、小川和樹くん(研究科長表彰)、光部亮佑くん(同窓会長表彰・大学院)が表彰され、また本年6月1日の創立記念日に高橋知里さんが学生表彰を受けました。

本課程に関して2点の話題をお知らせいたします。1つ目は修士課程の改組です。平成29年度より工学部の修士課程と一体化した自然科学技術研究科が発

足し、本課程は工学部の化学・生命工学科の一部と「生命科学・化学専攻」を形成します。現在、カリキュラムや入試方法の検討を進めており、両学部の良さが融和した魅力的な専攻を作り上げたかと考えています。2点目は、平成30年度に予定されている岐阜県食品科学研究所(仮称)の岐阜大学敷地内への移転です。

本学部B棟に隣接する形で設計が進められています。本課程の食品生命科学コースでは、食品の栄養素・嗜好性・健康維持機能についての知識、さらに製造・加工・保存・安全性・流通についての理論と技術を研究・教育しており、岐阜県や産業界との連携によって、地域の食品産業の発展に貢献できればと願っています。

最後になりましたが、皆様のご健勝とご活躍を祈念いたします。

(石田 秀治)

### ◆生産環境科学課程

昨年度までの3年間課程長として本課程の運営・管理に多大なるご尽力を賜りました宮川修一教授に替わり、本年度より同職を土井が務めさせていただきます。

ます。よろしくご願ひ申し上げます。

さて、生産環境科学課程の近況をご報告申し上げます。本年3月、本課程から90名が卒業し、その内の39名(他の大学院も含む)が修士課程へ進学いたしました。また本研究科第7期修了生として生物環境科学専攻から39名を送り出し、その内の8名が博士課程へ進学いたしました。3月の卒業・修了祝賀会においては、卒業生では森菜摘さんが学部長表彰、三田智恵さんが同窓会長表彰を受け、修了生では森脩祐さんが学長表彰、西岡友樹さんが研究科長表彰、速水菜月さんが同窓会長表彰を受けました。

本年4月には、本課程に新入学生82名(3年生編入学生5名を含む)、研究科専攻に54名を迎えました。

次に各コースの動向についてお知らせいたします。

応用植物学コースは13名の教員からなり、コース長は松井勤教授です。管理運営面では福井博一教授が学部長・研究科長として学部および大学院の運営に尽力されておられます。また大学院担当教員である大場伸也教授はフィールド科学教育研究センター長として、荒井聡教授

は教学委員長としての任にあたっており、小山博之教授は学長補佐として活躍されています。岐阜大学応用生物科学部学術研究補佐員であった落合正樹氏が、本年4月に助教(園芸生産工学、園芸学研究室)として採用されました。研究活動の成果としては、山根京子助教の指導のもと山本美幸さんと山口博志さんが第23回育種学会中部地区談話会優秀ポスター賞を受賞されました。

応用動物学コースは10名の教員からなり、コース長は岩澤淳教授です。平成23年度科学技術人材育成費補助事業「テニユアトラック普及・定着事業」でテニユアトラック助教として平成24年1月に採用された只野亮助教(動物ゲノム多様性学)が、本年4月に准教授に昇任されました。研究活動の成果としては、二宮茂准教授の指導のもと中山ふうこさんが日本家畜管理学会・応用動物行動学会2016年度春季合同研究発表会優秀発表賞、山本朱美准教授の指導のもと吉川拓磨さんと村上晶紀さんが日本養豚学会第104回大会若手優秀発表賞を受賞されました。

環境生態学コースは16名の教員からなり、コース長は平松研教授です。管理運営面では向

各務同窓会報

井讓教授が副学部長（教学・研究担当）として学部の運営に、また千家正照教授が連合農学研究科長として研究科の運営に尽力されておられます。研究活動の成果として川窪伸光教授の指導のもと森脩祐さんが第47回種生物学シンポジウム河野昭一ポスター賞、大学院担当教員である村岡裕由教授と斎藤琢助教の指導のもと長尾彩加さんと大橋千遼さんが日本生態学会第63回大会ポスター賞最優秀賞を受賞されました。

末筆ながら、同窓生各位のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。  
（土井 守）

◆共同獣医学科

各務原同窓会員の皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

今年4月、共同獣医学科では4期生として67名（岐阜大学32名、鳥取大学35名）の新入生を迎えました。これにより、本学科には1期から4期までの学生（合計272名）が在籍することになります。進級により、遠隔講義システムによる授業、学生

移動型授業、教員移動型授業が

増え、教職員一同、新たな教育体制の整備に邁進している状況にあります。

さて、今年度最大トピックは、「獣医学共用試験」としてのOSCE（客観的臨床能力試験）とvetCBT（Computer-based Testing）の実施です。平成26年以来、何度かの接続試験とトライアル試験が実施されてきましたが、いよいよ来年2月に本試験が行われることとなります。共用試験とリンクして始められる参加型臨床実習につきましても、着々と準備を進めております。

加えて、平成29年度に岐阜大学キャンパス内に移転予定の岐阜県中央家畜保健衛生所・高度病性鑑定センターとの有機的連携を目指し設置された「家畜衛生地域連携教育研究センター（GeFAH）」も活動を本格化させております。家畜保健衛生業績発表会の学内開催や鳥インフルエンザ防疫演習、共同獣医学科の学生を対象とする家畜保健衛生所業務の体験実習等を実施し、共同教育体制の強化に向け、GeFAH実務者会議のメンバーが中心となり奔走を続けております。

上記の共用試験の導入等、いま獣医学教育は激動とも言える進化と発展を遂げており、教職

員一同たゆまぬ努力を続けております。つきましては、引き続き皆様方のご理解とご支援を賜りますようお願いいたします。

（鈴木正嗣）

◆連合農学研究科

各務同窓会の皆様には、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

はじめに、平成26年度から連合大学院室長として本研究科の管理運営にご尽力頂きました下通直氏は学術国際部国際企画課課長補佐として異動となり、新たに都竹良之氏をお迎えすることになりました。また、留学生対応の事務職員として長年本研究科の国際化に大きく貢献されました垣添明子氏が退職され、新たに辻亜由美さんをお迎えすることになりました。平成28年度は、千家研究科長他、事務の都竹室長、吉田係長、小島、高橋、戸本、笠井、辻が協力して本研究科の管理運営に努めております。

本研究科は平成3年度に発足して以来26年目を迎えることになりました。平成27年度の学位授与者数は課程博士9名（内、

外国人留学生8名）、論文博士1名（内、外国人留学生0名）でした。本年度の入学者は、定員20名に対して21名（内、外国人留学生9名）で、これに秋季入学の学生も加わります。現在、本研究科には、総数92名の学生が在籍しており、外国人留学生が43名（中国、インドネシア、タイ、バン格拉デシ他、計9か国）です。

現在、本研究科が最も積極的に取り組んでいるのは、本研究科が創設した南部アジア地域の協定大学と形成している農学系博士教育連携コンソーシアム（G21）加盟大学15校（ダッカ大学、広西大学、アッサム大学、インド工科大学グワハティ校、アングラス大学、バンドン工科大学、ボゴール農科大学、ガジヤマダ大学、スプラズ・マレット大学、ランポン大学、チュラロンコン大学、カセサート大学、モンクット王トンプリ工科大学、ハノイ工科大学、チュイロイ大学）との教育研究連携です。具体的には、加盟大学15校の修士修了生を対象とした特別入試の導入（平成27年度入試から）、本研究科学生の現地派遣（研究インターンシップ）と加盟大学博士課程学生の受入れ（サンドイッチプログラム）、本研究科教員



の派遣（広報、共同研究、特別講義の実施等）と加盟大学15校の教員招聘（農学特別講義Ⅲ、共同研究の実施等）を積極的に進めています。そのための環境整備として、加盟大学15校に岐阜大学オフィス（ダッカ大学、スプラズ・マレット大学、広西大学）の設置、共同実験室（ボゴール農科大学、スプラズ・マレット大学、ダッカ大学、カセサート大学、アングラス大学）の設置を推し進めています。また、具体的な連携教育プログラムとしてデュアルPhDディグリープログラム等の整備に取り組んでおり、すでに、ダッカ大学、スプラズ・マレット大学、チュラロンコン大学、広西大学、アングラス大学、ガジヤマダ大学、モンクット王トンプリ工科大学の7大学と本プログラムの覚書に調印し、本年度10月からダッカ大学にダブル・デグリー！

各務同窓会報



プログラムの学生が入学する予定です。さらに、加盟大学からの入学生の経済的サポートとして、文部科学省の国費外国人留学生の特別枠の申請が採択され、一昨年度から3年間、毎年、修士2名、博士4名に対して国費奨学金が給付されることとなりました。

8月29日～31日には上記15校の加盟大学を招いて「The 5th UGSAS-GU Roundtable & Symposium 2016」を開催します。今回、オブザーバーとして、ラオス人民民主共和国のラオス国立大学が参加し、ICGU12に加盟予定です。12月には海外連携コーディネーターの加藤晴也客員教授が中心となって、タイのカセサート大学で微生物科学分野のワークショップを開催し、現地の大学と企業、本研究科とインダストリー部会参加企業の研究交流を実施します。

これら一連の活動は、本研究科ホームページ (<http://www.i.gifu-u.ac.jp/~rendai/>) をご覧ください。

最後に同窓生の皆様のご健康とご活躍をお祈りいたします。

(千家正昭)

◆◆ 連合獣医学研究科

各務同窓会のみなさまには、ご健勝のこととお喜び申し上げます。連合獣医学研究科の昨年度の学位授与者数は、課程博士20名、論文博士7名であり、これまでの学位授与者数の総計は、課程博士462名、論文博士144名となり、連合大学院設置から26年を経過しますが、多くの優秀な修了生を世に送りだしてきました。これも構成する4大学と5連携機関の先生方や事務局のみなさまのご努力の賜物と深く感謝しております。平成16年の独法化後、岐阜大学は、国立大学法人として6年周期の中期目標・中期計画を2回実施し、本年4月より第3期に入っております。第3期は、これまでとは異なり、大学の機能面でのグループ分けと共に大学予算の要求や実施方法等も変化し、大学法人としての独自性が強く打ち出されてきておりま

す。連合大学院におきましても、1昨年ごろからこうした大学運営の変化に伴いまして、連合大学院の今後の在り方について構成大学院で検討を重ねてまいりました。その結果、東の連合大学院を構成する帯広畜産大学は、独自で新研究科を設置へ、また、岩手大学と東京農工大学は、共同獣医学科を基盤とした新研究科を2大学で設置する方向性で構成4大学が合意いたしました。岐阜大学におきましても、現在、連合獣医学研究科後の教育体制について検討しているところであります。ただし、

これまで連合獣医学研究科が築いた実績と効果は、今後とも十分に活かすことが求められており、各研究科が教育連携にて大学院教育の質保証に向けて連携を深める予定です。各大学の新研究科の設置は、平成30年度～31年度に予定されておりますが、連合大学院に入学を希望する学生および在籍者につきましては、これまでと変わらぬ姿勢で基幹校として支援をしていくつもりでおります。今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。

(石黒直隆)

◆◆ 附属岐阜フィールド科学教育研究センター

各務同窓会員の皆様には、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

本年度よりセンター専任教員の大場がセンター長を拝命いたしました。宜しくお願いいたします。センターでは、教員並びに技術職員が一丸となって、センターで実施する多くの実験実習や研究をサポートし、さらに学外に対しても各種公開講座や見学会を開催し、活発に活動しています。

柳戸農場では、事務関係者のご協力で生産物の学内販売を強化し、農場のアップールと収益の向上を図っています。演習林では、外部委託事業で得られた収益をもとに柳戸試験林の整備や、位山演習林の案内マップの作製、実習教育の強化を図っています。美濃加茂農場では、優良な繁殖牛を導入することで近い将来の優良牛の生産が期待されます。また農場を活動拠点とする農場サークルの学生は、平成16年の発足から徐々に人数が増え、100名を超える学生が毎週定例の農場の農作業や諸活動をサポートしてくれています。今後とも同窓の皆様方のご協

力ご鞭撻を賜りますよう心からお願い申し上げます。

(大場伸也)



◆◆ 動物病院

各務同窓会の皆様にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

本年度も共同獣医学科の前田貞俊が動物病院長を引き続き務めさせて頂いております。どうぞよろしくお願い申し上げます。はじめに、昨年発生しました附属動物病院を受診された飼い主様の情報が含まれた印刷資料の紛失に際しまして、多くの方々に多大なご迷惑をおかけしたことを深くお詫び申し上げます。今回、個人情報保護の適切な取扱い

が徹底されていなかったことが明らかとなり、これを深く反省し、今後、このようなことを再発させないよう、附属動物病院内における情報の管理・運用体制の抜本的な見直しとともに、教職員および学生に対する個人情報保護に関する教育指導等、個人情報保護の徹底強化に最善を尽くしてまいります。

病院現況についてお知らせいたします。腫瘍科を担当されておりました丸尾幸嗣先生が定年退職されましたが、動物病院の収入を原資として、内科、神経科および腫瘍科に助教を一名ずつ新たに採用しました。したがって、動物病院の常勤教員は任期付き教員を含めて現在19名となります。今後も、診療、教育および研究のレベル向上に努めていきたいと考えております。

平成27年度の診療件数ですが、約9,000件と平成26年度とほぼ同数でした。収入では、10校ある獣医系国立大学の中では上位4番目、公立大学および私立大学を含めた獣医大学16校の中では上位7番目となります。今後も、愛知県および三重県を中心とする地域獣医療ネットワークをさらに強化させ、中部地区における基幹病院としての責務を果たしていく所存です。

今後も同窓の皆様方のご協力とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

(前田貞俊)

## ◆野生動物管理学研究センター

各務原同窓会員の皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

まず、岐阜県による寄附研究部門の「鳥獣対策研究部門」に関するご報告です。同部門は、平成28年度が今期の最終年でもあり、被害対策や生息状況モニタリング等に関わるこれまでの成果の取りまとめと総括を行っている段階にあります。

教育・普及啓発面では、例年どおり岐阜県教員免許状更新講習の講義のほか、野生動物管理学研究センターの提供授業（野生動物管理学入門）も継続しております。定例のシンポジウム・



セミナーとしては、7月19日に「鳥獣研究最前線」カラスとカワウ」を開催いたしました。

また、近年活発化している「野生鳥獣の資源化」への対応として、岐阜県からの「ぎふジビエ解体人材育成プログラム作成・実証委託業務」を受託しております。学内においては、大学COC事業の一環の授業として「ジビエ倶楽部」を開講するに至りました。

以上のとおり、センター員一同、鳥獣に関わる多様な取り組みを精力的に進めております。同窓の皆様には引き続きご指導、ご鞭撻を賜りますよう、改めてお願い申し上げます。

(鈴木正嗣)

## ◆比較がんセンター

比較がんセンターは設立から7年目となり、大きな曲がり角を迎えようとしています。本センターは、動物と人の腫瘍を一括して研究することを目的に、前センター長の丸尾先生の主導により設立されました。その後は、類似点が多い動物と人の腫瘍を連携して研究することに、お互いにメリットが得られるはずであるという「比較腫瘍学」の考え方をもち、連

合創薬医療情報研究科との共同研究などで成果を挙げてきました。しかし、本年3月末をもって、中心人物であった丸尾先生が、残念ながら定年退職されました。後任として私がセンター長に任命されましたが、丸尾先生と比較して力不足の感は否めません。幸いいくつかの新たな学内共同研究が進行中であり、それらをまずは成功させるよう全力を尽くしていく所存です。また、岐阜大学は大学院で連携している岐阜薬科大学を含め、まずと、医学、薬学、獣医学が同一キャンパス内に存在しているという全国でも数少ない環境となつております。近年この環境を生かそうという動きもあり、比較がんセンターはその重要な核となつていくことも考えられます。どうぞ今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

(森 崇)

## ◆共同獣医学教育開発推進センター

共同獣医学科が設置4年目を迎え、応用・臨床系の教育が加わってきました。5年次からは、附属動物病院に来院した患者を対象に、「総合参加型臨床実習」が始まります。実際の診療に係

わることから、学生の質を保証する必要があります。このため、4年生終了後、全国統一の「獣医学共用試験」を受験し、合格しなければ、同実習を受講できません。学生は、国家試験以外に、中間で試験による評価を受けることになりました。他に、以前、ご紹介しました2年次の学生移動型授業では、宮内庁式部職鶴匠・山下哲司さん（第14回P科卒業）に加え、JRA前理事長の土川健之さん（本学農学部V科第16回卒業・応用生物科学部客員獣医学系教授）にご講演いただきました。また、公衆衛生学実習では、その一部を鳥取大学の伊藤啓史准教授（本学農学部V科第39回卒業）にご担当いただいております。このように、同窓生の皆様からご協力をいただき、共同獣医学教育を推進しています。この紙面をお借りし、深く感謝いたします。引き続き、ご支援のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

(杉山 誠)



教員の異動

定年退職

H28.3.31  
共同獣医学科  
丸尾 幸嗣

昇任

H28.4.1  
応用生命科学課程 食品科学  
教授  
矢部 富雄

応用生命科学課程 食品科学  
准教授から

H28.4.1  
共同獣医学科 臨床獣医学  
教授  
森 崇

共同獣医学科 臨床獣医学  
准教授から

H28.4.1  
生産環境科学課程 応用動物科学  
准教授  
只野 亮

生産環境科学課程 応用動物科学  
助教より

採用

H27.9.1  
生産環境科学課程 生態環境学  
助教  
広田 勲

H27.12.1  
共同獣医学科 臨床獣医学  
助教  
西田 英高

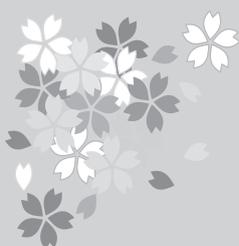
H28.2.1  
共同獣医学科 臨床獣医学  
助教  
高島 諭

H28.3.1  
応用生命科学課程 食品化学  
助教  
稲垣 瑞穂

H28.3.1  
生産環境科学課程 植物生産科学  
助教  
落合 正樹

H28.4.1  
共同獣医学科 臨床獣医学  
助教  
松原 達也

H28.4.1  
付属動物病院  
助教  
岩崎 遼太



新任教員のあいさつ



広田 勲

平成27年(2015年)9月1日から応用生物科学部生産環境科学課程環境生態科学コースに助教として着任しました。これまで東南アジア大陸部、主にラオス北部の山地部で、焼畑農業が行われている地域を対象として農耕地生態系における資源利用動態について調査、研究を行ってまいりました。最近は特に、自然資源利用が盛んな地域での植物資源量の推定とイベントトリーの作成、森林生態系におけるタケの動態と利用実態、焼畑システムにおける大型家畜の放牧の現状と課題について重点的に調査を進めております。

く行われていた土地でもありません。これまで机上でしか触れることのなかった日本のかつての焼畑農業や現在行われている山地農業についても見識を広め、日本と東南アジアの農業の比較の視点も入れながら、新たに配属される学生とともに、研究を進めていきたいと思っております。自由に発想し、活発な議論が行われる研究室の雰囲気づくりを目指していく所存です。まだまだ未熟のため皆様には様々な場面でご迷惑をおかけすることになるかと思いますが、何卒ご指導ご鞭撻のほどをどうぞよろしくお願いたします。



西田 英高

2015年12月に獣医臨床放射線学研究室の助教に着任いたしました。大阪府立大学を卒業後、奈良の民間病院に8年間臨床に携わり、大学院へ進学しました。大学院では幹細胞を用いた犬の脊髄損傷に対する治療法について研究を行いました。その後、2年半博士研究

員としてテキサスA&M大学にて研究漬けの生活を過ごしました。アメリカでは幹細胞の培養上清から修復因子を濃縮し、脳損傷に対する新たな治療法の開発について携わりました。文化の違いに戸惑いながらも様々な国の人たちと研究する楽しみと大変さを学びました。これらの経験を生かし、獣医学の発展及び教育に貢献したいと考えております。現在の研究テーマとして、①中枢神経疾患に対する幹細胞及び分泌因子を用いた治療法の開発、②中枢神経疾患に対する診断・予後を判定するために有用なバイオマーカーの開発を行っていきたいと考えております。付属動物病院では、専門である神経疾患を中心に外科診療を担当する予定です。専門的な知識や技術を習得し、より高度な診療を提供できるように励む所存です。また、若手獣医師の育成にも積極的に取り組んでいきたいと考えております。研究についても海外で学んできたことをさらに発展していきたいと思っております。精一杯努力していきますので、ご指導ご鞭撻賜りますようお願い申し上げます。

各務同窓会報



高島 諭

平成28年2月1日付けで共同獣医学科獣医内科学研究室に助教として着任いたしました。本学連合獣医学研究科(獣医学専攻)において学位を取得した後、本学のポスドクとして研究に取り組んできました。これからは教員という立場で、研究だけでなく教育と運営においても母校に貢献できることをとてもうれしく思います。

私はこれまで、外因性インスリン投与歴のないネコが血液中に自然に保有する「抗インスリン自己自然抗体」に関する研究、ネコへの経口アルギニン投与によるインスリン分泌刺激に関する研究、全身麻酔中のイヌやネコにおける体温低下の軽減を目的としたアミノ酸輸液に関する研究などに取り組んできました。さらに着任後からは、ネコの腎機能評価に有効な新規マーカーの検索に関する研究などに新たに取り組んでおります。臨床系教員として附属動物病院の内科診療に取り組んでいます。自分の研究成果を臨床獣医学

の発展に少しでも役立てられるよう尽力していく所存です。私は、民間企業と独立行政法人において約6年間勤務した経験があります。この経験は、就職前の学生達が社会に対して抱いている不安を解消させるために活かすことができるかもしれません。今後ともよろしくお願い致します。



稲垣 瑞穂

平成28年3月1日付けで応用生物科学部食品生命科学コース食品素材科学研究室に助教として着任いたしました。稲垣瑞穂と申します。私は、平成15年に岐阜大学農学部を卒業、同大学院農学研究科を修了いたしました。民間の食品会社へ勤めた後、連合農学研究科へ進学し、平成22年に岐阜大学より博士号を拝受いたしました。

5年の経験を積んできました。今春、非常にありがたい縁に恵まれ、大好きな岐阜大学に戻り研究が続けられることを心より嬉しく思っております。

私の卒業論文のテーマは、乳幼児期に罹患するロタウイルス下痢症に対して、子どもに身近な食材である牛乳の中から、感染を予防する成分を探すことでした。この研究の面白さを捨てがたく、今も、その見出された活性成分の感染阻害メカニズムの解明に取り組んでいます。学生さんとともにワクワクしながら、母子をつなぐミルクの新しい役割を見つけることが、私の夢であり課題です。岐阜大学の学生さんのチャームポイントは、純粋なところとコツコツと熱心に取り組めるところだと思います。その良いところはさらにキラリと光るように、また学生生活が社会に巣立つための有意義な準備期間となるよう、責任を持って努めさせていただきます。



落合 正樹

平成28年3月1日付けで応用生物科学部応用植物科学コースに助教として着任いたしました落合正樹と申します。

私は三重県鈴鹿市で生まれ育ち、名古屋大学農学部を卒業後、名古屋大学大学院生命農学研究科へ進学し、名古屋大学より博士号を拝受いたしました。博士課程修了後は、岐阜大学応用生物科学部の学術研究補佐員を経て現職に至ります。

研究は学生の頃から花卉園芸学一筋で、これまでは切り花として生産されるトルコギキョウの収穫後の開花制御を目的とした、花卉の展開に関する遺伝子の発現解析や遺伝子組み換えによる機能解析、バラにおける高効率な形質転換法の新規開発に携わってきました。ちなみに趣味もペランダでのガーデニングや高山植物を見るための登山などで、いつも頭の中がお花畑です。今後、園芸作物を研究対象として、こ

げます。

れまでに培った基礎的な分子生物学のスキルを活かしつつ、より生産現場へ還元できる研究に取り組みたいと考えております。奇しくも、本学はキャンパス内に付属農場が併設されていることに加え、農業生産が盛んな地域であり、意欲的な花卉園芸作物の生産者も多く見受けられます。地元の産業に根差した園芸学研究を行う者にとつてこのような恵まれた環境で働かせていただけることを大変光栄に思います。本学の研究活動および教育活動へ貢献できるよう微力ながらも精一杯努力してまいります。ご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



松原 達也

平成28年4月1日付けで応用生物科学部共同獣医学科産業動物臨床学研究室の助教に着任いたしました松原達也と申します。私は、平成24年に岐阜大学応用生物科学部獣医学課程を卒業後、岐阜大学大学

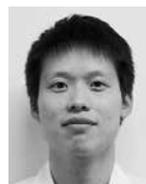
各務同窓会報

院連合獣医学研究科に進学し、平成28年に博士号を取得しました。岐阜大学には学ぶ立場としてこれまで大変お世話になりましたが、その岐阜大学で教える立場となり、ご縁に感謝しております。また、責任のある教員となったことで、身の引き締まる思いです。

私が着任した産業動物臨床学研究室では、ウシなどの産業動物の診療および産業動物臨床に関わる教育、研究を行っております。これらを通じて社会に貢献できるように努めてまいります。これまでの研究につきましても、私はマイクロミニピッグという実験用ミニブタの免疫学的特性に関して研究を行ってまいりました。今後は、これらの知識を活かし、研究の対象であったブタに限らず、ウシなどの産業動物に関しても免疫学的研究を行いたいと考えております。特に、産業動物臨床において問題となる疾患の有用な診断マーカーの検索など、研究の成果を臨床の場に還元できるような研究を進めたいと思います。

研究・教育・診療とまだまだ未熟ではございますが、獣医師、そして岐阜大学の教員として社会に貢献できるように

日々精進いたします。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



岩崎 遼太

本年4月1日付けで、応用生物科学部附属動物病院の放射線治療システム管理担当として着任いたしました。

私は2008年に帯広畜産大学を卒業した後、4年間東京の動物病院で小動物診療を学びました。その中で、がんを患うイヌネコが非常に多く、また知識と経験の少なさから自分の無力さを痛感し、臨床腫瘍を専門的に学ぶことを決意しました。岐阜大学には、当時の商業誌に岐阜大学腫瘍科の先生方が執筆されていたこと、腫瘍科診療数が急増していると感じたこと、また病院ホームページに好感が持てたことなどから志望しました。2012年4月より本学腫瘍科の非常勤獣医師として勤務させていただいており、縁もゆかりもない土地でしたので当初不安を抱えてはおりましたが、病院スタッ

フの皆様にあかく見守っていただき、あつという間に5年目となります。今では家族も増え、自然豊かなこの土地で毎日楽しく過ごしています。戦国武将にもだいたい詳しくなりました。

放射線取扱主任者とは、放射線治療装置(リニアック)を管理していく上で法律上必要な資格ではありますが、それを活用して研究にも力を注いでいきたいと考えています。またCTなど画像検査を用いたがんの診断、治療効果判定、予後予測などにも興味を持っており、今年度から気持ちを新たに努力していきたいと思っております。

今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



退職予定者のあいさつ

定年退職のご挨拶



山内 亮

各務同窓会 会員の皆様にはご健勝にてご活躍のことと拝察いたします。

私は平成29年3月をもって定年退職することになりました。昭和54年4月に上野良光先生、加藤宏治先生の研究室に助手として赴任してから37年余の時間が過ぎようとしています。その間、両先生には研究・教育の面で多大なご支援をいただき感謝に堪えません。私が赴任したのは移転前の那加キャンパスでしたが、数年後には柳戸キャンパスへ引っ越しとなり、改めて新しい研究室に感激したものです。学部の組織は赴任した当時と比べて大きく変化してしまい、同窓生の皆様には戸惑っておられる方も多いかと思えます。私の所属する研究室も、最初の農学部農芸化学科農産物利用学講座から生物資源利用学科学食品科学講座食品成分化学研究室、教授昇任に伴い生物資源利用学科学反応工学講座食品素材工学研究室へ移動、法人化

に連動して応用生物科学部食品生命科学課程食品科学コース、さらに名称変更で応用生命科学課程食品生命科学コースへと、時代とともに変更されてきました。この間、研究活動では、脂質過酸化と抗酸化剤をテーマとして、ある程度の成果をあげられたのではないかと思っております。大学教員の責務として、教育・研究とともに管理運営が求められますが、定年前の5年間を総務・財務担当としてISO14001の立ち上げ等、学部の運営に関わるという貴重な経験をさせていただきました。また、学生諸君とは、教育・研究を通じて様々な交流をさせていただきました。若い頃には、研究指導等で密に付き合うことができました。しかし、年齢を重ねるにつれてだんだん疎遠になり、特に最近5年程は会議等で研究室を不在にする時間が増えて学生諸君に十分な指導ができなかったことを申し訳なく思っています。最後にになりましたが、応用生物科学部の益々の発展と同窓会会員皆様のご健勝を祈念申し上げます。長い間、ありがとうございました。

## 退職のご挨拶



小見山 章

蒼い空、澄んだ空気、緑

の樹冠、生き物たちの不思議な暮らし、私は、そんな森林を仕事場にしてきました。御岳の針葉樹原生林、大白川谷のブナ原生林、荘川や位山の広葉樹林、乗鞍山麓のシラカンバ林、金華山の照葉樹林、それぞれの森の記憶が鮮やかに甦ります。36年前の着任から、森林の経年変化、樹木成長の季節性、森林構造などを調べ、多くの樹木と森林の個性に触れました。これは、まさに岐阜大学そして岐阜の地が私に与えてくれた宝物です。

そのうえ、熱帯林研究という幸運に浴し、1982年に南タイでマングローブ原生林の根現存量を調べた後、東南アジアで研究を展開し、ボルネオ島では高さ90mの熱帯雨林に相まみえました。いまや原生林が稀少になつてしまつたので、泥と汗にまみれて森の原型を調べた経験もそれなりに生きたようです。マングローブ生態系の炭素収支の研究、樹木重データベースの構築、世界共通相対成長式の作成、それらを研究者としてのさ

やかな矜持とすることができました。

森の生き物に触れ、そこに住む人と語り合い、時には山登りや釣りを楽しみながら、もっぱら好奇心を梃子にして大学生活を送りました。途中、学部長や理事・副学長という重い任務もありました。多くの仲間とともに、秩序と混沌と美しさが重なりあう世界で、探検心に導かれるまま存分に謎解きを楽しんだというのが私の感懐です。

ああ面白かった。いまは、澄んだ気持ちでこう言えます。すべては、志を拓いていた師のおかげ、その志を聴いてくれた学生諸君のおかげ、私を支えてくれた同僚・関係者と家族のおかげです。ありがとうございました。

私は、マングローブ林でやり残したことがまだあります。もう少し前に進みたいと考えています。

## 退職のご挨拶



宮川 修一

2017年3月末を以て

定年退職することになりました。1978年4月に農学部へ着任

しましたので、本年度末まで39年間お世話になつたことになりました。

大学院を出て長野県の中信地方試験場で雑穀育種を担当し、そこから農学科作物学研究室の助手として赴任しました。

当時は安江、堀内両先生のもと学生院生が各務原にあった農学部構内でも東端の独立棟で研究を行っていました。桜に囲まれた平屋瓦葺きの木造建物は、夏は泥靴の土埃、冬は窓のすきま風という環境でした。大学院ではイネの品種生態を研究していたのでこちらでも思いましたが、栽培実験のできる水田は研究室を出て名鉄と国鉄(当時)の線路を渡り、農場の北部へ坂を下つたはるか先にありましたから、このために自転車で砂利道をずいぶんと往復したものです。

しばらくして柳戸への大学移転作業が始まり、1982年には真っ白なビルの3階に7部屋から成る研究室が入りました。この頃から東南アジアなどへ稲作調査に出る機会が多くなり、研究も熱帯の稲作生態に関する課題に移ってきました。新しく開いた研究圃場は土よりも石の方が多かったのですが、ここで栽培実験も繰り返しました。

1996年からは生物資源生産学科多様性生物学講座が発足し、

私は藤本先生と共に6階へ移転して多様性保全学分野(研究室)を担当することになりました。

この研究室は応用生物科学部になつても引き継がれ現在に至っています。その頃から学生にタイやラオスの農村に長期に滞在してもらい、水田や焼畑、ホームガーデンを何ヶ月にもわたつて研究することも可能となつてきましたので、私自身の研究も農村の農業生態へと変化してきました。稲作へのこだわりはありますが今ではシロアリや産米林樹木も研究の対象となつていきます。

こうしてみるとこの間大学も、また私自身も大きく変わったことに驚かされます。本学部の教職員の方々や同窓会の皆様には長い間たいへんお世話になりました、篤く御礼申し上げます。

## 大学生活を振り返つて



清水 英良

昭和56年2月28日。雪深

い各務原の地に友人の車と共に来岐してから35年余。長いようで今となつては光陰矢のごとし。懐かしい思い出満載の大学を来年3月に退職致します。

赴任した当時の研究室の名称は農業造構学であり、よく構造学と間違われたことが記憶に残っています。仲野先生、嶋崎先生のもと、3人体制で研究室が運営されていたことは今となつては考えられない裕福な時代であったなあとつくづく感じています。

当時の私の専門は、フィルダム等の土構造物における確率論的振動解析でした。まだパソコンが普及していない時代であり、名古屋大学大型計算機センターに毎月数回出張してはバッチジョブ或いはTSSで計算していたことが懐かしく感じられます。

転機となつたのは昭和58年の農学部への柳戸移転からです。相半ばしてパソコンが普及しだし、BASIRCを利用したTSS通信が可能となり、研究室から計算結果を取り出せる時代に変貌しました。併せて岐阜大学の計算機センターも充実し、お絵描きが得意な私にとつて誠に至福な時代になつたと思つています。センターの辻さんには非常にお世話になりました。謹んで御礼申し上げます。

そうこうしているうち、数値計算の曖昧さに気づきはじめてました。パラメータを恣意的に決めれば帰納的に何とでもなる、

各務同窓会報

逆に言えば演繹論でコーディングした結果は現実問題と乖離していることに。壁にぶち当たりました。

ため池・フィルダム等の土構造物の振動問題を解明するには、原位置実験が必須であることに遅まきながら気づきました。幸いなことに、当時は研究室の予算が200万近くあり、仲野先生、嶋崎先生のご支援のもと、振動計一式を購入し現地実験に取り組みました。両先生には感謝の念で一杯です。

教育面は色々な想い出があります。赴任した当時の農業工学科時代は週4日実験・実習がありました。当時の私は自分の研究ばかり考えていたので、教育に力を入れていた大学と齟齬を来すことが頻繁にありました。他方、学生は非常に真面目で卒業研究も真摯に取り組み、私と違って愚痴一つこぼさず黙々と取り組んでいました。当時の卒業生に感謝の念が耐えません。

平成に入ると測量等の講義を受け持つようになり、どう授業を構築するかに悩みましたが、結論は硬軟両刀、メリハリを付けること信じて批判覚悟の上我が道を進みました。独りよがりの授業で学生にご迷惑をおかけしたかも知れませんが、こ

でも当時の卒業生に感謝しています。

以上、教育・研究の話に終始しましたが、大学運営・社会貢献面で大したことをやらなかったなと今から思えば反省しています。残りわずかな日々を少しでも皆様に貢献できればと考えているこの頃です。将来に向けて、応用生物科学部教職員の方々の今後の益々のご発展を祈念して筆を閉じさせていただきます。

定年退職のご挨拶



石黒 直隆

私は平成16年3月31日に、

前職の帯広畜産大学から応用生物科学部、獣医学課程、食品環境衛生学研究室に赴任してまいりました。着任日が、4月1日ではなくて、3月31日になってるのは、丁度、平成16年4月1日から、国立大学が、独法化により国立大学法人に変わるころになつていたのでありません。また、旧国立大学の内に移動すれば、手続き等が容易であったからかもしれません。実は、平成15年・16年にかけて、獣医学科に5研究室・10名の増員が学内的な処置でなされました。

私が赴任した食品環境衛生学研究室は、新設の研究室で、他の獣医系大学にはない研究室名がついており、食品と環境の2大看板を背負う名前となつております。新設の研究室であつたこともあり、居室および実験室とも新たに整備していただきました。温かく迎えていただきまして、前任地の帯広畜産大学では、獣医公衆衛生学研究室に属し、平成13年9月に日本で初めて発生が確認された牛海綿状脳症(BSE)の診断や対応に研究室をあげて追われておりました。しかし平成16年ごろには、全国的に検査体制も確立し、社会的にも冷静さを取り戻した状況となつており、教員の移動等も可能な状況になつておりました。

着任直後は、一人での研究室運営でしたが、翌年には、猪島康雄先生が准教授として着任し、2人での教室運営となりました。

着任後は、帯広畜産大学で行つていたプリオン研究を続けることとし、21世紀COEプロジェクト経費で連合大学院棟に設置されたレベル3の実験施設を使うと共に、医学部の隣に新設された実験動物施設のP3施設を利用して、プリオン感染マウスを飼育しながら、プリオン研究を続けることができました。ま

た、帯広畜産大学では実現できなかった仔ウシや仔ヒツジを用いて、腸管から神経系へのトリーサー実験を解剖学研究室の先生方や名古屋大学の先生方と共に共同実験を実施し、共同研究の成果を得る機会に恵まれました。現在では、プリオン研究からプリオン様疾患として知られているアミロイド症の研究へと研究領域を広げており、今では猪島先生が引きついでいただいております。岐阜卓にきて、思いもつかなかった研究「絶滅したニホンオオカミの遺伝学的研究」にも着手でき、骨に残る古代の残存遺伝子を復元し、分類学上の疑問に答えることができたのも岐阜卓大学に來てからの研究成果です。

岐阜卓大学には13年間お世話になりましたが、そのうち、2期4年間の連合大学院獣医学研究科の研究科長を合計で8年間務めさせていただきました。獣医学研究科の設立時のことをよく知る教員として、構成4大学(帯広畜産大学、岩手大学、東京農工大学、岐阜大学)を絶えず平等に、かつ丁寧に対処することを信条として運営し、大学院教育の改善にも係わることができましたことに感謝申し上げます。

最後にになりましたが、応用生物科学部ならびに各務同窓会の

一層のご発展と皆様方のご健勝をご祈念申し上げて退職のご挨拶とさせていただきます。13年間、有難うございました。

ごあいさつ



北川 均

長い間お世話になりました。1981年1月1日付で赴任して以来、2016年度まで36年という長きにわたって岐阜卓大学に在籍させていただきました。その間、教育、研究、診療、運営業務とさまざまな仕事をさせていただき、とくに教育、研究、診療は

かなりやりたいようにやらせてもらったように思います。とくに学生の皆様との仕事は楽しかったです。一方では、長期間の課程長(学科長)など、自身の能力を超えていた仕事も多くて、たくさんご迷惑をおかけしました。仕事がいんどいと感じた時もありましたが、今では何となく過ぎてしまったように感じています。私としては、いろいろなことをそれなりに頑張ってきたつもりですが、振り返ってみると一人ではできない

ことばかりでした。けっして無事ではありませんでした。皆様のご指導とご協力のおかげで何とかここまでたどりつくことができたように思います。深くお礼を申し上げます。私がいなくなっても岐阜大学は続きます。獣医の教育改革はまだまでであり、鳥取大学との共同学科がはじまったばかりですし、学部化や、再編整備に向けたさらなる努力が必要です。岐阜県中央家畜保健衛生所の移転も目前に迫ってきました。たくさんの仕事を残してしまつたようですが、着地点は見えているはずですので、大学、学部、学科の皆様が片づけてくれると信じています。これからもたくさんの山と谷があると思いますが、和と余裕で事を進めてください。

岐阜大学の退職に当たり、長い間のご厚情にあらためてお礼を申し上げますとともに、皆様のご健康と発展を祈念させていただきます。退職後は、まだ確定ではありませんが、教育関係のお手伝いすることを考えています。もうしばらくは、教育に関わっていくことになりそうですので、その間は元気で頑張りたいと思います。よろしくお願ひします。

## 丸尾幸嗣教授退職記念事業報告

応用生物科学部共同獣医学科獣医分子病態学（獣医臨床腫瘍学）研究室の丸尾幸嗣教授は平成28年3月31日をもって定年退職されました。先生は岐阜大学着任後、国立大学の附属動物病院では初めての腫瘍専門診療科を立ち上げられ、また動物と人の腫瘍を一括して研究するという目的の下、比較がんセンターの設置にご尽力されました。その多年にわたる教育および研究における功績により本学名誉教授の称号が授与されました。

退職記念事業として平成28年2月10日に最終講義が行われました。「伴侶動物医学と比

較腫瘍学―人生の岐路と人との出会い―」と題され、先生が比較腫瘍学に到達された過程を、人との出会いを交えて講義されました。また、講義終了後には都ホテルにて、退職記念祝賀会を盛大に開催させて頂きました。ご参加頂きました方々には深く感謝いたします。

現在丸尾先生はヤマザキ学園大学教授として動物看護師の育成に取り組まれています。また、岐阜大学フェローとして「家庭犬のがん予防プロジェクト」に引き続き関わられます。丸尾先生の今後益々のご活躍を祈念して、事業報告とさせていただきます。

## 退職記念事業のお知らせ

### 山内亮教授の 定年退職のお知らせ

応用生命科学課程食品生命科学コースの山内亮先生は、平成29年3月31日をもって定年退職されます。先生は岐阜大学農学部をご卒業後、京都大学農

院に入学され農学修士ならびに農学博士の学位を取得されました。昭和54年に岐阜大学農学部に助手としてご着任され、平成元年に助教授に、平成12年に教授に昇進されました。平成16年の学部改組からは応用生物科学部教授として、教育研究に従事

されてきました。また、食品科学コース長、食品生命科学課程長、ならびに応用生物科学部副学部長といった数々の要職をご歴任され、長きにわたり大学運営に貢献されました。

先生のご専門である食品素材中の抗酸化物質の分離および解析ならびに抗酸化ビタミン、特にビタミンEが有害なフリーラジカルを捕捉する仕組みを明らかにするご研究は、応用研究ならびに基礎研究を両輪として、数多くの成果を挙げられました。またこれらのご研究を通して多くの人材を輩出されました。

先生のご退職にあたり、最終講義を平成29年2月14日（火）13時より、応用生物科学部101多目的ホールにおいて開催します。多数のご参加をお待ちしています。また講義終了後、A棟2階第1会議室において茶話会を開催予定です。多数のご参加をお待ちしております。

（岩本悟志）

### 小見山章教授の 定年退職のお知らせ

生産環境科学課程環境生態学コースの小見山章教授は、平成29年3月31日をもって定年退職されます。

先生は、昭和55年4月に岐阜大学農学部助手として着任され、平成4年1月に助教授、平成7年3月に教授に昇進され、平成16年からは学部改組により応用生物科学部教授として、36年間余の長きにわたり教育研究に従事されてきました。また、平成20年4月から2年間は、応用生物科学部学部長として、平成22年4月から4年間は、岐阜大学理事・副学長（学術研究・国際・情報担当）として学部のみならず、大学運営にも尽力されました。

先生は、とくに森林の炭素固定に関する研究に精力的に取り組み、樹形法則にもとづく、マンガローブや落葉広葉樹のバイオマス推定式の提案をはじめ、数多くの研究業績を残されました。この他、二次化した森林の問題点の探求を通して教育を進めてこられました。

この間、文部科学省による現代GP（現代的教育ニーズ取組支援プログラム）の実施責任者、21世紀COEプログラム（研究拠点形成事業）の事業推進担当者、地（知）の拠点整備事業の実施責任者として、教育研究の活性化にも取り組まれました。先生のご退職にあたり、最終講義を平成29年2月1日（水）

13時より、応用生物科学部101多目的ホールにおいて開催します。同窓の皆様のご参加をお待ちしております。また、講義終了後、15時からA棟2階第1会議室において茶話会を開催予定です。

(加藤正吾)

### 宮川修一教授の 定年退職のお知らせ

生産環境科学課程環境生態学コースの宮川修一教授は、平成29年3月31日をもって定年退職されます。

先生は、昭和53年4月に岐阜大学農学部助手として着任され、平成2年10月に講師、平成4年1月に助教授、平成11年4月に教授に昇進され、平成16年から学部改組により応用生物科学部教授として、39年間の長きにわたり、教育研究に従事されてきました。また、平成20年4月から4年間、岐阜フィールド科学教育センター長として学部附属農場・演習林の運営、平成25年4月から3年間、生産環境科学課程長として課程・学部運営にも尽力されました。先生は、雑穀育種研究に端を発し、水稲品種の生態研究に精力的に取り組まれ、日本はも

とより、世界をフィールドとして研究を深めてこられました。特に、タイ王国を中心としたインドシナ半島を舞台に、灌漑に頼らない天水田稲作の研究、また最近では田地に生育する樹木の有用性に着目した産米林の研究を大きく発展させてこられました。それらの研究で先生は、常に農業を人々の生業として捉え、また野生生物資源利用を農村の暮らしとして検討されてきました。その結果、研究はもとより教育においても多大な影響を私たちに与えてくださり、また、先生のフィールド調査研究に参加し指導を受けた学生たちは、貴重で豊かな体験を糧として、今や多様な分野で活躍しています。なお、先生の意向に沿って特別な最終講義の設定はいたしておりません。(川窪伸光)

### 清水英良教授の 定年退職のお知らせ

清水英良先生は京都大学大学院修士課程を修了後、昭和56年に岐阜大学農学部助手としてご着任されました。その後講師、助教授を経て平成9年に教授に昇任され、平成29年3月をもって定年退職されます。その間安全衛生推進室長、大学院委員長

など数多くの委員を歴任され、本学および本学部の発展に貢献されました。また、全学共通教育で教養の物理学(物性の力学)担当されたほか、学部教育では環境施設学、環境材料学、土壌環境計測学実験及び実験法などの専門科目を担当され多くの優秀な人材を育成されました。研究においては確率と地震動解析による最適化や動特性の測定方法の問題などに取り組み、数値解析のほか日本各地の農業用ダムで現場実験を行われてきました。そして、これらの研究を通して多くの卒業生を農業土木系の公務員やコンサルタント会社へ送り出されました。先生のこれまでのご功績に対し心より感謝いたしますとともに、ご退職後も健康に留意されこれまでと変わらぬご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。(西村眞二)

### 石黒直隆教授の 定年退職のお知らせ

共同獣医学科食品環境衛生学研究室の石黒直隆教授は、平成29年3月をもって定年退職されます。先生は、帯広畜産大学畜産学部をご卒業後、昭和57年に北

海道大学にて獣医学博士の学位を取得されました。帯広畜産大学畜産学部助教授、教授となられた後、平成16年に岐阜大学応用生物科学部教授として着任されました。岐阜大学では、新規研究室の初代教授として獣医公衆衛生学に関する教育と研究に精力的に取り組まれ、プリオン病研究を中心に多くの業績を残されました。先生の業績は高く評価され日本獣医学会賞、岐阜新聞大賞などを受賞されています。また、平成20年には岐阜大学大学院連合獣医学研究科の研究科長となられ、大学院教育の充実と研究の活性化にご尽力され、多くの優秀な若い人材を社会に輩出されました。また食品安全委員会、プリオン専門調査会委員、日本獣医学会理事、日本獣医師会獣医公衆衛生学会会長など数多くの外部役員を歴任されました。

先生のご退職を迎えるにあたりまして、最終講義を平成29年2月28日13時30分より、応用生物科学部101多目的ホールにおいて開催いたしますので、多数のご参加を賜りますようお願い申し上げます。また、講義終了後、16時からA棟2階第1会議室において茶話会を開催する予定です。(猪島康雄)

### 北川均教授の 定年退職のお知らせ

共同獣医学科獣医内科学研究室の北川均教授は平成29年3月をもって定年退職されます。先生は岐阜大学農学部をご卒業後、岐阜県職員を経て昭和56年に岐阜大学農学部助手として着任されました。その後、講師、准教授と昇任され、平成13年から教授として活躍されました。先生は平成8年に犬糸状虫の病態発生および治療に関する研究で日本獣医学会賞、平成12年に黒毛和牛の尿管形成不全症の研究で中央畜産会畜産大賞を受賞されるなど、多くの優れた研究成果を挙げて獣医学の発展に貢献されました。また人材育成にもご尽力され、先生の座右の銘である「普通のことを普通にやる」を胸に、多くの門弟が様々な分野において活躍しています。

先生のご退職にあたり、最終講義を平成29年2月28日(火)14時30分より、応用生物科学部101多目的ホールにおいて開催します。また講義終了後、16時からA棟2階第1会議室において茶話会を開催予定です。多数のご参加をお待ちしています。(西飯直仁)

# 同窓会長賞受賞者

同窓会長賞は、毎年1回、優秀な学生の日頃の努力を顕彰する目的で、平成19年度に設立されました。平成27年度も、各課程および専攻からの推薦を受けて、応用生物科学研究所の学生の中から、次の受賞者が決定されました。受賞者には心よりお祝い申し上げます。また、なお一層のご活躍を期待いたします。

## ■受賞者（敬称略）

応用生命科学課程

宮城 一真

生産環境科学課程

三田 智恵

獣医学課程

前田 麻友子

応用生命科学専攻

光部 亮佑

生物環境科学専攻

速水 菜月

宮城 一真

この度は、同窓会長賞という素晴らしい賞を授与していただき、誠にありがとうございます。素晴らしい賞を授与していただき、誠にありがとうございます。このような賞をいただけたのは、先生方や友人達、そして家族といった周囲の方々のおかげであると感じております。3年次編入生である自分が成績優秀者として表彰されたことで、今後の編入生の励みにつながってくれば、これに勝る喜びはありません。

今後は、学部で得た知識を大学院での研究に活かし、社会に貢献出来るような研究成果を出せるように日々精進致します。

三田 智恵

この度は同窓会長賞という素晴らしい賞を頂きまして、誠にあ

りがとうございます。これも、熱心にご指導してくださった先生方をはじめ、先輩方や、苦楽を共にした友人たち、どんな時も支えてくれた家族のおかげだと感じています。

岐阜大学ですごした4年間の中には、たくさんが発見や学びがありました。基礎的な内容から現在の最新技術や研究内容まで、非常に多くの知識を得ることができました。

私は今、私に多くを教えてくださいました岐阜大学の修士課程に在学しています。今後もより専門的な知識を吸収していくとともに、学んだ知識を生かし、自らの研究に励んでいきたいと考えています。

前田 麻友子

この度は同窓会長賞という素晴らしい賞をいただき、誠に光栄に存じます。熱心に指導してくださった先生方、毎日楽しく一緒に過ごしてくれた友人たち、支えてくれた家族がいてくれたからこそ、獣医師として必要な知識を学ぶだけでなく、貴重な経験ばかりだった充実した6年間を過ごすことができたのだと感じております。

今後はこれまでの大学生活で得たものを生かしつつ、さらに精進を重ねて成長しつづけていきたいと思っております。

光部 亮佑

この度は、同窓会長賞という素晴らしい賞を頂き、誠にありがとうございます。

このような素晴らしい賞を頂いたのは、お世話になった先生方、友人、家族の支えがあったからこそだと思います。心から感謝しています。

入学当初は、将来の夢もなく不安でいっぱいでしたが、先生

方の熱いご講義を受ける中でも私にも夢ができ、研究職に就くことが出来ました。今後は、岐阜大学で6年間学んだことを活かし、精進し、成長していく所存でございます。

速水 菜月

この度は、同窓会長賞という素晴らしい賞を頂きまして、誠にありがとうございます。大変光栄に存じます。周囲の支えがあつてこそこの受賞であり、日々熱心に指導して下さる先生方、支えてくれる家族、友人に深く感謝しております。私は今後、世界に貢献できる研究者となることを目指し、博士課程に進学いたします。この度受賞を胸に、さらに勉学、研究に励んでまいります。今後とも、先生方、同窓の先輩方の変わらぬご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。

# 吉寄基金

## 平成27年度受領者報告

### 新奇鉄還元細菌TKM1株の電流生産能に関する研究

中村 浩平

吉寄清己研究支援(奨励研究)より、これまでにもご支援頂いてきた、微生物燃料電池から分離された、全く新しい細菌に関する研究にご支援頂きました。

以前の各務同窓会報でもご紹介した微生物燃料電池は、微生物が分解可能な物質から発電します。当研究室では、岐阜大学内の水田土壌を種菌として、稲ワラを含むセルロースを燃料とした微生物燃料を四年間継続運転しています。その微生物燃料電池から分離された細菌の一つTKM1株は、系統分類学上、新奇な細菌であり、かつ、

電流生産菌であると考えています。電流生産菌は微生物燃料電池の核となる生物です。TKM1株の近縁種においても電流生産能の報告例は無く、電流生産菌としても新しい細菌として注目しています。

また、TKM1株のゲノムを解読したところ、TKM1株が数多くの植物細胞壁分解酵素をもつことが分かってきました。これは種菌源や燃料等の分離までの経緯から考えても不思議ではありません。TKM1株がセルロースのような植物細胞壁成分を燃料に、微生物燃料電池で発電すれば、稀有な電流生産菌と言えるでしょう。

TKM1株の微生物学的特徴の他に微生物燃料電池内での電流生産機構など、多くの研究の余地が残されています。ですが、まずはTKM1株を岐大で分離分類された、岐大菌(属名は未定、種名をguidaiと予定)として提唱すべく準備しています。最後になりましたが、ご支援頂きました吉寄清己さまに心より感謝を申し上げます。

### 低環境負荷型社会実現に向けた「C1微生物」の細胞機能の戦略的活用に向けた基盤構築

中川 智行

メタノールは、燃焼の際、水とCO<sub>2</sub>に完全酸化され、かつ植物バイオマスや温暖化ガスのCH<sub>4</sub>やCO<sub>2</sub>から直接合成できる環境負荷の少ない次世代型エネルギーのひとつである。私たちのグループでは安価でクリーンな次世代型エネルギーであるメタノールのバイオ産業への応用を目指して、メタノールを炭素源として利用できるC1微生物の細胞機能に注目し、その能力を私たちの生活に応用するための研究を行っている。

吉寄基金には一昨年度からご支援をいただき、昨年度は酵母のメタノール応答遺伝子の発現制御の分子機構の解明を通して、メタノールを出発原料にした様々な有用タンパク質の生産の効率化を、さらにはC1微生物の植物共生の仕組みを示すことで作物の生育促進技術への応用を見据えた基礎的研究を中心に進めてきた。これから研究成果が、将来、低環境負荷型社会の構築の一助になればと願っている。

最後に、私どもの研究内容にご理解いただき、また、本研究に対してご支援いただきました吉寄清己様に心より御礼申し上げます。

### C19 吉寄清己研究支援寄附金の今年度受領者

石田 秀治

昭和19年9月に農芸化学科を卒業された吉寄清己氏からの支援は「吉寄清己研究支援寄附金」として平成19年度から始まり、昨年までに延べ13名、支援金総額は1,100万円となっております。氏のご課程に対する篤志に、衷心より感謝申し上げます。

本年度からは、氏の保有する株式を御寄附頂き、それを永続的に保有し、配当金を利用して研究を支援して頂くことになりました。本年度は、寺本邦准教授の「ナノセルロース複合材料の創製と機能発現」という研究に451,250円のご支援を頂きました。寺本先生には、吉寄様が望んでおられる「材料科学の発展による社会貢献」にご尽力頂ければと思います。

# 支部会員からの便り

## 岐阜県高等学校支部

林 博康 (S14M)

岐阜県高等学校支部(各務会)は、岐阜県内の高校、特別支援学校、県教育委員会で勤務している者及び退職者で組織されて

います。主に理科と農業科の教員で現在の会員数は177名です。

平成28年度総会・懇親会を6月25日(土)に岐阜市にあるグランヴェール岐山で開催しました。会員37名が



参加し、ご来賓として、岐阜大学応用生物科学部副学部長光永徹先生、応用生物科学部教授千家正照先生をお迎えし開催しました。光永先生からは、現在の大学の近況として、現在大学が取り組んでいる内容や今後の大学の方向性のお話、千家先生からは学科長を務めてみえる大学院連合農学研究科の近況や社会入学生で6年かけ博士号を取得でき

るお話をしていただけでした。また今年度は3名の入会があり、新入会の3名から挨拶をしてもらい、会の終盤には岐阜県高等学校校歌、凜真寮歌を参加者全員で歌い万歳三唱により来年の再会を約束し散会しました。



## 愛知県高等学校教員支部

小久保 清隆

愛知県高等学校教員支部は、愛知県内の高等学校に勤務している教員及び退職者で組織され、支部会員の総数は120名に及びます。本年度の総会並



びに懇親会は、6月25日(土)に愛知県稲沢市「稲ふじ」(稲沢高校担当)にて開催いたしました。会員22名が参加し、ご来賓に応用生物科学部生産

環境科学課程応用動物科学コース動物繁殖学研究室 教授 土井 守先生をお招きし、大学の近況等についてお話を伺うことができました。2023年には、岐阜高等農林学校創立100周年記念事業が開催されることを聞き、同窓として支援を考えていきたいと思いま

す。また、当支部では、新入会員の入会が少なくないことについて、土井先生に教職を目指す学生には、是非とも希望を諦めず最後まで頑張るようご指導をお願いいたしました。

懇親会では、土井先生と同科卒業の会員もみえ、学生気分での時間の経つことを忘れ、楽しいひとときを過ごすことができました。会の終了には、恒例となりました岐阜高等農林学校校歌と凜真寮寮歌を合唱し、和やかに会を終えました。最後に、母校の更なる発展を心よりお祈りいたします。

## 平成28年度各務同窓会京都支部総会の報告について

嘉住 熊二 (前京都支部長)

京都支部は、3年に1回総会を開催し、会員の近況や健康状況を確認し、大学時代の思い出と旧交を温めなおし、平成28年度は7月9日(土)に京都平安ホテルで開催されました。会員数は平成17年調査で約230名でしたがその後は未調査です。

会員の出席は14名と本部から来賓2名出席いただきましたので総計16名でした。

各務同窓会本部からは平工副会長、幹事の松山先生のお2人がお祝いと激励にご出席いただき、会が盛り上がりました。厚くお礼申し上げます。

平工副会長様からは、創立100周年記念事業会の準備と支部の参加協力を期待したいのご説明がありました。

総会では役員選任の議案が提案され、平成27年度までの支部長嘉住熊二(A大6)が、平成28年度から藤吉弘政(E大17)に交代となりました。

なお、懇談会の交流時に山口会員(F大30)から、平成28年10月に京都府において開催される第40回全国育樹祭に

ついて説明があり、特に昨年度開催された岐阜県の育樹祭が大変良かったので、担当者が岐阜県に出向き指導を受けたことと、特に京都府の山田知事さんから岐阜県方式が良かったので参考にしよう指示があったとの報告がありました。



平成28年度 京都支部総会出席者



# 「ほ場の長辺100メートル」

## 恩師 五十崎 恒 先生を偲んで

兵庫農洲本土土地改良事務所 相 埜 利 幸

早いもので、昨年9月に先生がお亡くなりになられて、もう1年が過ぎてしまいました。

徐々に悪くなられているとお聞きはしていましたが、いざ御逝去の報に接すると、いろいろな思い出がこみ上げてきました。

昭和54年、五十崎先生の農地工学講座に在籍していた時に青年海外協力隊員としてタンザニアのムワンザ州のかんがい事業への派遣が決まり、技術的な抛り所として現地に持つて行ったのが農業土木ハンドブックでした。

現地では、ビクトリア湖を水源とした用水計画に加え、換金作物として水稻の導入を計画し、サバンナを水田へと整備する農地開発も盛り込み事業計画を策定しました。

ほ場の区画決定に当たっては、何の疑いも無く、ハンドブックから長辺を100mとして標準区画を30アールとしました。

この100m×30mの標準区画は昭和40年代に五十崎先生らの試験研究の結果、当時の機械

体系や技術水準のもと最も効率的な区画として採用されたと記憶しています。

現地の工事は、スコップ、ツルハシ、一輪車の人力施工で、竣工まで相当な月日を要し、加えて当時の営農は牛馬以前の人力による栽培技術の段階で、いきなりこの機械体系の標準区画を導入し、当然、栽培方法も苗づくり、田植えという日本式で全てを計画し、実際、石だらけの30アールを手植えた苦労は今も忘れられません。

その後、この30アール区画は人力作業に適したように小さく分割され、グーグルアースでこれらの区画を見るたびに五十崎先生を思い出し、栽培技術レベル等の営農環境を考慮することなく日本の標準区画をそのまま採用した当時の自分の技術者としての判断に今更ながら恥ずかしさを感じ、五十崎先生に叱られている気がします。

一方、現在、勤務している淡路島では、特産のタマネギやレタスなどの品質向上や生産振興

を目的には現場整備が進みつつありますが、次の世代を見据え、野菜作を主とした汎用化水田において、長辺ほどの程度の延長が適しているのかを検証しようとしており、御存命であれば是非この検証に加わっていただき

## 吉崎範夫先生を偲んで

吉崎範夫先生は、平成27年(2015年)9月26日に永眠されました。平成25年(2013年)3月末に退職されてから、わずか2年半、享年68歳でいらつしやいました。

先生は、北海道大学理学部、片桐千明先生のもとで研究生活をスタートされました。両生類発生学の一時代を築いた片桐研究室の、兄貴的存在であったとのことです。その後、昭和49年(1974年)7月に岐阜大学教養部助手として赴任され、昭和59年(1984年)4月助教、平成4年(1992年)1月に教授として、二十余年に渡って教養教育に尽力されました。その後、教養部改組に伴って平成8年(1996年)10月に岐阜大学農学部に移籍され、平成16年(2004年)4月には応用生物科学部教授となられ

たかったと、残念でなりません。本年度末に定年をむかえることのような私の農業土木技術者としての礎を育てていただいた五十崎先生に深く感謝するとともに、謹んで哀悼の意を表し、お悔やみ申し上げます。

るとともに、生産環境科学課程長、応用動物科学コース長、生物出題部会長などの要職を歴任され、学生教育・学内運営に多大な貢献をされました。生産環境科学課程長在任中には、学生の希望を取り入れ、2年次生の基礎的な学生実験(「生産環境科学基礎実験」)の開設に尽力されました。先生なしには実現が難しかったことと思われま

す。研究においては、多数の原著論文と著書の公表を通じて動物発生学や畜産学の進歩・発展に大きく寄与されるとともに、日本動物学会の評議員、岐阜地区委員等を歴任され、学会活動にも熱心に取り組みされました。農学部移籍後は、アジアからの留学生も含め、大学院修士課程および博士課程の学生の教育に尽力され、多くの研究者・技術者を育てられました。

先生は長年、三田洞の御自宅から自転車通勤を続けられ、また週末にはジョギングを欠かさないなど、たいへん健康に恵まれていらつしやいましたが、定年退職間際に病に倒れられ、闘病生活を送っていらつしやいました。最後まで御自宅で論文執筆に取り組んでおられたと伺いました。先生から頂いた最後の

## 武井 昭先生を偲んで

武井 昭先生は平成二十八年二月十日、八十六歳でご逝去されました。家族葬とのことでした。訃報をうけ、大変悲しんでいるところであります。

例えば岐阜大学農学部の旧六学科から新三学科への学科再編で生産流通管理学講座に農村計画学新設に伴う人事で、農水省北陸農業試験場長であられた先生にご赴任いただけたことを想いいたします。

先生は昭和二十五年、東京大学を卒業後、農業技術研究所に入所、農業研究センター総合研究官、そして北陸農業試験場長を経て本学の農村計画学の初代教授として四年間、勤められました。

先生は「生産流通管理学概論」

年賀状には、『薬の副作用についての最後の研究に挑戦しています。自律神経の破壊が人体にどのような効果を及ぼすのかがよく分かりました。』とありました。先生は実験生物学者として人生を全うされたのだと思います。先生の御冥福を心よりお祈り申し上げます。

(山本謙也)

及び「農村計画学」の担当でした。来学早々、「農村計画学テキスト」を作成、丁寧に意欲的に講義されました。そのテキストによれば先生の農村計画の原点は農水省が進めていた開拓、干拓など農地開発の中心的存在であった八郎瀧干拓構想が根底にあったようです。日本農業再建を農地拡大と日本の生産力形成、その舞台としての干拓、開拓のモデルとして一万二阡ヘクタールの八郎瀧干拓地にどう農村を計画するか、先生は中央干拓と周辺干拓にそれぞれ入植農家と出作り農家に分け、前者の大切さと、それを支援する公的施設との連携が最も大切としています。経営規模もいきなり、一〇ヘクタール、二〇ヘクター

ルではなく、現況の規模からの出発とされています。その理論的支柱は日本の農業技術の発展論理が基本的に大切という持論に基づいているようです。先生のご著書、『日本稲作の技術的性格』(明文書房)や、『農業経営通信』に発表された「農業経営研究への期待に応えるために」(一、五)、農業経営分析データの「ユーザーをなぜ問題にするのか」はそれらをよく物語っています。先生の日本的な農業経営の基本原則の沿った農村計画から学ぶことが多かった。

先生の退官を記念して先生を囲んだ有志で韓国旅行に一週間出かけました。先生は初めての外国旅行でその行き先の調べも所持品の準備も万全でありました。

その後、広島県立大学退官後、奥様と毎年、外国旅行にお出かけになられたことを知り、嬉しくなりました。でも不幸にも奥様が急逝されました。先生は『一緒にいてくれてありがとう』の小冊を残されたことを聞き、学問と引き、家庭と引き、素晴らしい人生でしたねと感服しています。

先生のご逝去にあたり、心からご冥福をお祈り申し上げます。

(杉山道雄)

# 事務局からのお知らせ

同窓会の皆様には、日頃より格別のご協力とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。今年の夏も猛暑が続き、とりわけ岐阜県内では、雨がほとんど降りませんでした。また、8月下旬には台風が3つ（9号、10号、11号）同時に発生しました。台風9号は関東甲信・東海地方に接近し被害が心配されています。台風10号は、九州南部・沖縄地方に接近し被害が心配されています。台風11号は北海道根室市付近に上陸し、川の氾濫、土砂災害、農作物の被害など主に北海道で大規模な災害が発生しました。

さて、まもなく岐阜大学農学部・応用生物科学部は創立100周年の節目を迎えます。柳井幹事長は、代表委員会の場で、それに向けて具体的なプランを提示されました。事業体制として、相談役、代表、事務局長、事務局長補佐、監査、幹事、会員、賛助会員であることが示されました。創立95周年祝賀会（2018年6月）、創立100周年（2023年6月）、講演会および卒業生の表彰（毎年6月）、記念事業のための募金活動、同窓会館（博物館兼用）の設置、在校生のアジアへの派遣活動の確立、在校生のための奨学制度の確立、ホームページを介した情報発信の強化などの100周年記念

事業の事業内容が示されました。2015年から2022年までの毎年6月に創立祝賀会も開催すること、2022年12月10日（岐阜高農創立記念日）に創立100周年前夜祭を開催すること、2023年12月10日に創立100周年後夜祭を開催するスケジュールが示されました。また、同窓会連合会の集い（仮称）も今年初めて開催されます。その趣旨は、「各学部同窓会会員に対し、大学の近況を報告するとともに、学部の特徴ある活動を輪番で紹介し、意見交換を行う。また、それぞれの学部同窓会の状況を意見交換することにより、情報共有を図ることで、相互の理解を深め、大学と同窓会との連携及び学部同窓会間の連携をより一層推進することを目的とするもの。」です。

事務局の重要な役割の一つに現役学生に対する勧誘活動があります。今年度も、入学式当日に会費納入の呼びかけを実施いたしました。各務同窓会の存在意義と時代に即したあり方について、今後とも議論を重ねていくことが必要だと感じられます。

未筆ながら、会員の皆様のご健勝とご多幸を祈念申し上げますとともに、今後のより一層のご発展をお祈り申し上げます。

## 寄附金のお願について

平成20年から、始めました寄附金制度は趣意書にもありますように継続して行っていますので、本年度もご協力の程よろしくお願いいたします。

詳細は同封の「応用生物科学部への寄附金拠出のお願い」及び「趣意書」をご覧ください。

お申込みいただきました2週間程あとに、応用生物科学部より、郵便局の振込用紙を送付いたしますので、ご入金いただきますようお願いいたします。

詳しくはこちらを確認してください。

【申込書】

住所氏名を記入し、押印してください。

金額を記入してください。

1	寄附金額	円
2	寄附の目的及び条件	
	目的	岐阜大学における学術研究費
	条件	なし
3	寄附金の名称	岐阜大学奨学寄附金
4	その他（主たる寄附金対価部局等）	応用生物科学部共通 （対応責任者：職員 応用生物科学部長 氏名 田井 洋一）

## 申込書の記入方法

\*申込書に必要事項をご記入の上、下記の住所へお送りください。

〒501-1193 岐阜市柳戸1-1  
岐阜大学応用生物科学部学務係気付  
岐阜大学各務同窓会事務局

## 第97号

平成28年11月30日  
岐阜大学各務同窓会

〒501-1193 岐阜市柳戸1-1  
TEL (058) 293-3411  
FAX (058) 293-2841

振替 00820-9-12742

http://www.abios.gifu-u.ac.jp/kagami/  
e-mail ob-abs@gifu-u.ac.jp